

2014 年度 センター試験 英語(本試験) 分析

全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：55 問	
難易度の変化（対昨年）	○ 難化	○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	● 増加	○ 変化なし	○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	● あり	○ なし	
新傾向の問題	● あり	○ なし	
<p>総評 設問数は 54（昨年度）から 55（今年度）と 1 題増加した。出題形式にはいくつか変化が見られた。第 2 問 A、問 8 から問 10 の「2 か所の空所に入る語の組み合わせを答える問題」、第 3 問 B の「取り除くべき一文を選ぶ問題」、第 4 問 A、問 4 の「最終段落の次に続くトピックを選ばせる問題」が出題形式の変化かつ、新傾向の問題である。配点については、例年通り語彙（単語・熟語）・読解問題の比重が非常に高く（164 点 / 200 点）、英文の語彙力や素早い処理能力が必要とされたであろう。</p>			

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	前年と同様、発音問題が 3 題、アクセント問題が 4 題という出題で難易度の変化も見られなかった。
第 2 問	文法・語法・会話	44 点	A の四択問題の一部（問 8～問 10）が空所 2 つの組み合わせ問題に変化した。その他の形式に変更はない。B の会話文問題はここ数年と同様に、文脈判断が必要なものが出題されている。
第 3 問	文脈把握 語数 A. 136 語 B. 342 語 C. 343 語	41 点	問題 A と C（＝昨年までの問題 B）の出題に変化は見られなかったが、問題 B で「不要な英文を省く」という新傾向の出題があった。形式変更に戸惑った生徒もいたかもしれないが、連続する二文の関係を正確に読めば解答できる易しい問題である。
第 4 問	資料読解 語数 A. 385 語 B. 171 語	35 点	昨年までと同様、情報の読み取りが出題された。A の設問数が昨年度の 3 つから今年度は 4 つに増えた。A の問 4 は「最終段落に続くと思われるトピック」を選ぶという新傾向の問題が出題されたが、段落の構成を考えれば正解を選ぶのは難しくない。
第 5 問	ビジュアル読解 語数 663 語	30 点	ある出来事について 2 人が書いたことを読み取る問題が出題され、問 5 は昨年度と異なり、正しいイラストを選ぶ問題であった。2012 年度まで出題されていたのと同じ形式であり、過去問で練習を重ねた受験生にとっては難しく取り組むことができたはずである。
第 6 問	長文読解 語数 647 語	36 点	「オーディオ機器の音質」を扱った文章で昨年度とほぼ同じ語数である。英文・設問共に標準的なものが出題されたが、A の問 2 の根拠を探すのが、受験生にとっては少し難しかったかもしれない。